

市民まちづくり活動促進テーブル
事業検討部会（第1回）

会 議 録

日 時：平成23年11月30日（水）10時開会
場 所：札幌市役所本庁舎 6階 1号会議室

1. 開 会

○河野部会長 おはようございます。

本当にお忙しい年末が間近に迫ってまいりましたが、お集まりいただき本当にありがとうございます。

時間となりましたので、市民まちづくり活動促進テーブル事業検討部会を開催したいと思います。

2. 開会あいさつ

○河野部会長 最初に、高野市民自治推進室長より一言お願いいたします。

○高野市民自治推進室長 本日は、お忙しい中、ありがとうございます。

前回、8月2日に全体会議をやっており、その後3カ月以上がたってしまっていました。すぐに開催したいと思っていたのですが、大変おくれまして、心からおわび申し上げます。

まず、最近の私どもの室の取り組みを簡単にご紹介したいと思います。

前回、本委員会でも触れさせていただきましたけれども、ことしは、さぼーとほっと基金に東日本大震災を踏まえて被災者を支援するまちづくり活動というテーマを設けて、私どもは被災者支援にすぐく力を入れているのですけれども、今のところ、おととい現在で2,630万円が集まっております。昨年同期は2,300万円ということでした。去年などはニトリさんとセイコーマートさんから周年記念などで1,000万円ずついただいていたのですが、そういう大口の寄附が見込めない状態です。件数的には被災者支援の関係で結構来ているのですが、大口の寄附が来ないと総額が大きくならないので、非常に苦戦しております。もし、皆様方でだれかご紹介していただけるような個人、団体等があればぜひお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それから、今月の11月8日にコープさっぽろと札幌市で8社目となるまちづくりパートナー協定を結びました。市長のマニフェストで、また4年間で10社と結ぶということでやっておりますので、それにつきましては今後も継続的に企業への働きかけなどもしていきたいと思っております。

それから、ふだん、市民活動は市民になじまない部分もありますので、理解を深めるということで、いろいろな活動に参加するきっかけづくりということでさまざまなイベントを開催しております。特に、10月25日には地下歩行空間におきまして市主催の「支援フォーラム」と題して、私どもの基金の助成団体による震災支援活動の報告やパネルディスカッション、寄附者の紹介なども行いました。非常に好評で、かなり人も来まして、テーブル委員の皆様にもいろいろご案内させていただきましたけれども、お忙しい中を来ていただいた皆様には心から感謝を申し上げます。

本日は、この後、説明しますけれども、市民まちづくり促進基本計画の進捗状況と、活動団体へのアンケートをやっておりますので、そういったことをもとに今後の市民活動促

進施策のあり方についてご議論を深めていただきたいと思います。思っております。

それから、前回、吉田委員からお話がありましたけれども、事業検討部会の活性化も考えておまして、改めて役割をどういった方向に持っていくのか、その辺のご議論も深めていただきたいと思います。思っております。

それでは、今後も委員の皆様のご経験やお知恵をかりながら一生懸命やりたいと思っておりますので、改めてお力添えのほどをよろしくお願いいたします。

○河野部会長 ありがとうございます。

3. 議 事

○河野委員長 それでは、早速、事業検討部会に移らせていただきます。

今、推進室長からも述べていただきましたが、議事に入りたいと思います。

それでは、事務局よりご説明をよろしくお願いいたします。

○事務局（望月市民活動促進担当係長） それでは、私よりご説明させていただきます。

まず、促進基本計画についてですが、もう一回、概略をおさらいさせていただきたいと思っております。

こちらの冊子の真ん中あたりに織り込んでございますので、こちらをお目通しいただきたいと思っております。

1は、基本計画の目的でございます。

市民まちづくり活動促進施策を総合的・計画的に推進すること、市民、事業者、市が一体となったまちづくりを進めること、これが基本計画そのものの目的でございます。

2は、基本計画策定の背景でございます。

複雑多様化した市民ニーズに対して行政だけで十分に対応することが困難。町内会、NPO、企業によりまちづくり活動がますます活発化してきている状況。

右に移りまして、3の基本計画の基本的な視点です。

多くの市民がまちづくりに参加するためにはどうすればよいか（市民参加）。市民・団体が活動をより充実させるにはどうすればよいか（活動の充実・発展）。こういう視点を持って制定された計画になっております。

下に移りまして、左側の4の市民まちづくり活動の現状と課題です。

（1）参加する市民の側から見た現状と課題です。①参加経験がない市民が約6割、②懸念される市民のつながりの希薄化、③コミュニティ活動の活性化には参加しやすい環境が必要という課題意識がございます。

下に参りまして、（2）活動団体側から見た現状と課題としましては、①まちづくり活動団体の現状としまして、団体数は増加傾向だが、会員10人未満の小規模団体や9年以下の活動年数の短い団体が多い（町内会を除く）となっております。②情報、人材、活動の場、財政など広範な活動上の課題といたしましては、情報については市に広報・情報発信の支援を期待、人材育成については活動を支える人材確保・養成が課題、活動の場につ

いては打ち合わせや作業等が行える身近な場所への要望が多い、財政についてはさぼ一とほっと基金への期待が大きい。連携については、団体の8割以上が連携に前向き、連携のコーディネート、交流イベントなどのきっかけが必要、町内会については、加入率低下や担い手不足が課題、企業については、社会貢献活動の未実施が過半数で、理由は経済的事情と多忙ということで、これが活動団体側から見た現状と課題でございます。

これら市民の側の課題と活動団体側の課題を踏まえまして、真ん中の5の基本目標を定めております。

基本目標として、豊かで活力ある地域社会の発展のために、市民が市民の活動を支えるまちづくりの札幌スタイルの構築を基本目標に決めました。目標（1）として多くの市民のまちづくりへの参加促進、目標（2）として多種多様な市民まちづくり活動の充実と発展、目標（3）として市民まちづくり活動の連携促進、目標（4）として自主的・自立的な市民まちづくり活動の拡大と地域力強化という目標を定めております。

これらの目標に従って、隣の6の市民まちづくり活動促進に関する施策の方針を定めております。

この施策の方針1が、多くの市民が主体的に参加できる環境づくり、方針2が自立的な市民まちづくり活動の広がりをもつことを促進、方針3が企業の社会貢献活動の促進、方針4がまちづくりを行うさまざまな主体の連携促進、方針5が計画の推進に必要な基本的な環境の整備という方針に沿って施策を立てていく形になります。

そして、7になりますが、具体的にいろいろな施策の中で計画を推進するための重点施策を掲げております。これは61項目となりますが、それが七つに分類されております。重点施策1として多くの市民のまちづくりの参加促進、重点施策2として市民まちづくり活動を支える人づくり、重点施策3として活動の場となる施設の機能強化、重点施策4として市民まちづくり活動の多様な連携を促進、重点施策5として企業による社会的課題、解決型事業の促進、重点施策6として地域における多様なふれあいの場の創出、重点施策7として市民まちづくり活動を広げる寄附文化の情勢という七つに分類して、この中に61の項目を整理する形で基本計画が成り立っております。

以上が基本計画の概略になります。

本日は、この基本計画の61項目について、所管している各部局に昨年度、平成22年度の取り組み状況を照会いたしまして、その結果がまとまりましたので、ご報告をさせていただきます。

資料に移りまして、レジュメの後につけてある札幌市市民のまちづくり活動基本計画重点事業の平成22年度実施状況について簡単に概略をご説明させていただきます。

61項目と非常に多いですので、途中を飛ばしながら全体像に触れさせていただきます。もしご質問や個別のことがありましたら、後ほどご確認いただく形をお願いいたします。

それでは、重点施策1の多くの市民のまちづくり参加促進の取り組みです。

ここは、便宜上、情報発信、若者・子どもの参加、地域での取り組み、企業での取り組

みというふうに分類させていただきました。

情報発信としましては、まちづくりの総合情報発信ということで、まちづくり総合情報ポータルというホームページが市民活動サポートセンターのホームページでして、こちらの内容の強化、改善を行っておりまして、活動団体のイベント情報の紹介、活動される団体が入力できるようなカレンダー機能の改善、活動の相談についての情報掲載などさまざまなコンテンツを作成して情報発信に取り組んでおります。

それから、地域コミュニティのさらなる活性化支援といたしましては、町内会が抱える課題とその解決手法例をまとめた冊子の「町内会活動のヒント」を作成し、配布しております。

次に、推薦まちづくり図書紹介は、委員の皆様にご協力いただきまして、推薦まちづくり図書を、先日ご報告したとおり、ホームページで公開しております。

次に、若者・子どもの参加ということで、学生だけを例示しておりますけれども、学生と地域の連携によるまちづくりの促進です。学生まちづくりコンテストという事業と地域と学生サークルによるまちづくり連携推進事業という2本の事業がございます。学生まちづくりコンテストは、学生のグループがまちづくりでこんな取り組みをしたらいいということを考えて、提案してもらって、それを審査して、素晴らしいアイデアを出したところには奨励金を贈呈するという取り組みでございます。

それから、地域と学生サークルによるまちづくり推進事業です。これは、学生サークルが地域の町内会の活動に参加していくもので、北大の落語研究会、北海学園の法研究会、北星学園大学のチアダンス部などが町内会の活動に参加しております。例えば、落語研究会ですと、町内会で行う敬老会や老人クラブの活動にまちづくりセンターに出向いて参加するということをやっております。また、チアダンス部も市の直営事業や町内会の事業に出てきて、花を添えてくださっているところでございます。

次に、若者向けまちづくりインターンシップ事業です。こちらは、平成22年度に実験的に学生3名をインターンとして市民活動団体に受け入れを依頼しました。実験的にやりまして、学生も非常に楽しくやっていたようですが、コーディネートを継続的に続けるのが難しいのかなという問題意識も持っております。

続いて、地域での活動ですが、地域の縁結び事業「まちづくり参加・入門教室」です。これは、各区役所やまちづくりセンターが主体になってまちづくりへの参加を促すようなイベント、講習会などをしております。これは、各区さまざまに区の企画力が出てくる事業でございます。

それから、福祉除雪事業です。これは保健福祉部でやっているのですが、地域のご高齢世帯や障がいのある方の世帯の住宅の間口除雪や声かけを地域から募った協力員、地域の住民や企業の方が応募により登録して下さっているのですが、こういう方たちが除雪や声かけを行うものでございます。

また、学校と地域の連携によるまちづくりの促進では、学校と地域が連携して、地域の

清掃や学校の周りに花を植えたり、音楽会、学校の合唱部や吹奏楽部が地域のイベントに参加するという活動をしております。

次に、企業の取り組みとしましては、ワーク・ライフ・バランス取り組み企業応援事業があります。こちらは、ワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる市内の企業を独自の基準で認証し、認証された企業には、アドバイザーを派遣したり、助成金をもらえる場合もございます。

続きまして、さっぽろふるさとの森づくり事業でございます。こちらは、イベントとしてはさっぽろふるさとの森植樹祭や、札幌水源の森づくり2010という大きなイベントがありまして、500人、600人に参加いただいて植樹しているものがございます。もう一つは、企業と連携協定をして、企業が中心になって森づくりをしているという事例が二つほどございます。

今、10項目ほどご紹介したのですけれども、施策1にはもともと23項目ございまして、抜粋したものだけをご紹介させていただきました。

施策1の成果指標としては、市民まちづくり活動に参加経験のある人の割合が平成25年に60%という目標となっております。平成22年度の集計結果では38.5%となっております。ただ、これは、アンケートのとり方を変えて、ごみ拾いをしたことはありますかというような聞き方に変えると突然パーセンテージが上がることもありまして、この受けとめ方はいろいろあると思うのですが、指標を途中で変えると意味がなくなりますので、こういった集計になっております。

重点施策1については、以上でございます。

この調子で全部を読んでいくととても大変かと思しますので、以下は飛ばし飛ばしで行かせていただきます。

重点施策2の市民まちづくり活動を支える人づくりという方向性でございます。

まちづくりに関する総合的な人材育成では、昨年度に事業検討部会でご議論いただく中で、当初、総合的な、体系的なカリキュラムということも考えていたのですが、ハードルがなかなか高いところもあり、もうちょっと柔軟な方向でということをご了解をいただいているところかと思っております。

それから、上から4番目に大学機関等の連携によるまちづくり人材育成プログラムの開発というものがあります。こちらは、人材育成プログラムと言うとなかなか大変な言葉だと思っておりますが、昨年に取り組んでいるところでは、北海道大学や北海道情報大学の学生と教授をメンバーとした検討会を立ち上げて、大学生と教授が中心になって先ほど申し上げた札幌まちづくり総合情報ポータルというホームページの内容を検討しております。その中でこんなことができたらいいのではないかというアイデアがいろいろ出てきております。今、学生たちが中心になって、まちづくりに参加を働きかけるためのデジタルコンテンツ、動画になると思うのですが、そういう映像をつくっているところです。これは、地下歩行空間にデジタルサイネージという映像を流せる場所がございますので、こちらに流

すことを考えておりました、まちづくり総合ポータルにも掲載していくことを考えているところでございます。

それから、下から3番目の簡易型災害図上訓練（D I G）普及員の養成でございます。D I Gは、ディザスター・イマジネーション・ゲームと言うそうですが、地図上で行う防災訓練であるD I Gを町内会と地域からの要請に基づき実施し、市職員を対象にD I G普及員養成研修を開催しているということです。レポートなどを読みますと、地図などを見ながらもしもの場合を想像することで、また町内会の皆さんで集まってそういった話をされることでかなり具体的にイメージしながら、もしものときのことを考えられると聞いております。

それから、その下の子ども防災リーダー育成です。消防局で小学校4年生や中学生を対象として防災教育の出前講座を実施しております。小学校4年生対象は「教えて！ファイヤーマン授業」、中学生対象ではジュニア防災スクールとなっております。

一番下は、学校と地域の連携による職場体験活動ということです。中学校については、キャリア教育などのあり方について検討しているということでございます。また、市立高校の2年生に、地域の事業所のご協力をいただいて職場体験学習を実施しております。職場体験という中で社会人として地域のまちづくりにどう参加していくかという意識の醸成もされていると聞いております。

こちらの施策2の成果指標ですが、まちづくり人材育成講座修了者が平成25年に累計100名となっております。こちらの人材育成講座修了者は、先般、ご議論をいただく中で一本の決まった人材育成講座ではなく、社会課題解決に向けた事業に携わる人材の育成支援やNPOに対する理解者をふやすような事業への参加者をカウントしていったらいいのではないかと考えているところでございます。

続きまして、重点施策3の活動の場となる施設の機能強化です。

表の上から2番目の市民活動サポートセンターの機能の充実です。ご存じかと思いますが、札幌駅北口のサポートセンターは、しみサポカフェというイベントで、市民活動団体がバザーやミニステージを行ったり、講座や団体同士の交流の場であるサロン事業を行っております。また、市民活動相談で、カウンターで日々やっただいておりますが、こういうことをして機能を提供しております。

また、表の一番下ですが、コミュニティ施設の利用促進です。区民センターや地区センターは、平成22年度の指定管理者の契約更新にあわせて指定管理者と協働として運営チームを設置しております。サポートセンターは運営委員会が既に投入されておりますけれども、こういったものが区民センターにも広がっております。

重点施策3の成果指標ですが、まちづくりセンターにおける出前講座等の会合の開催回数が平成25年度で807件となっており、平成22年度現在は673件となっております。

重点施策4の市民まちづくり活動の多様な連携を促進ということです。

表の一番上のさっぽろまちづくりウイークがあります。これは、エルプラザの市民活動サポートセンターでまちづくりフェスタというイベントをやっておりますが、それにあわせてまちづくりウイークをその前後に設定して、そこで市民活動団体のイベント情報を集約してチラシなどを作成しているものでございます。

それから、上から4番目の協働推進に関する取り組みです。緊急雇用創出推進事業がありまして、NPOから事業の公募をしまして、それを市が委託する事業をやっているのですが、この成果報告会は市職員を対象に行いまして、行政とNPOが力を合わせて解決に取り組んでいく事例を市職員に周知したところでございます。

その下のさっぽろ孤立死ゼロ安心ネットワークモデル事業を保健福祉局でやっております。これは、近隣住民などを主体とした安否確認の取り組みを従来やっていたのですが、さらに民間事業者との連携により安否確認をするモデル事業に取り組んでいるということです。

表の下から2番目の商店街地域力アップ事業です。こちらは、商店街と地域住民が力を合わせて課題の解決に取り組む事業を公募して、4件の事業に助成を行ったということです。商店街の中に悩み相談の事務所ができたり、商店街でスタンプラリーや地域通貨の取り組みをしている事例がございます。

一番下のごみ減量アクションプログラム支援事業です。こちらは、市民・事業者・札幌市が連携してごみ減量の取り組みをしております。具体的には、生ゴミ堆肥化、段ボール回収ボックスの設置、マイバックの普及活動もしております。こういった形での連携も存在しております。

成果指標ですが、連携を行っている活動団体の割合は平成25年度に70%を目標ということで、22年度現在は66.5%となっております。

続きまして、重点施策5の企業による社会的課題解決事業の促進です。

表の一番上の企業市民活動研究会です。これは、主に企業経営者や企業のCSR担当者とNPOの方などで集まって研究会を実施しております。ここでNPOの紹介や企業のCSRをテーマとしたワークショップをして活動の情報交換をしております。また、NPOと企業の出会いの場ともなっております。

それから、表の真ん中よりちょっと下の札幌・サンサンプロジェクトを環境都市推進部でやっております。これは、太陽光発電の設備の導入を推進するために公共施設に先だって導入しているもので、札幌ドームや札幌コンベンションセンターに設置しており、今後は企業などと連携しながら太陽光発電の導入を全市的に進めていきたいというものです。

その下のコミュニティビジネスによる商店街振興事業です。これは、経済局で市民活動団体、社会福祉団体が商店街等と連携して地域課題の解決に取り組む事業を公募して、事業への助成を行っているということです。具体的には、1事業の事例がありまして、こういった団体が連携して、商店街のウェブサイトを立て上げて、65の店舗情報を掲載しているということです。

表の下から2番目ですが、コミュニティ型建設業創出事業です。これも経済局です。NPO、商店街等が母体となったコーディネート事務局と市内の建設業で構成される企業グループを公募、選定して、事務局が市民からの相談を受けて内容に適した企業を紹介するという取り組みについて補助金を出しています。こちらは、NPOや商店街がユーザーの窓口になって企業に橋渡しをするということで、NPOと企業のコラボレーションのあり方の一つの事例になると思います。

一番下は、協働による冬期歩行環境の改善です。これは、企業で寄附によって歩行者用の砂箱の設置や、砂まき活動ですね。コンビニなどでやってくださっていますが、こういったことをやっております。

施策5の成果指標は、企業市民活動研究会参加企業による新たな社会貢献活動の創出が平成22年度の累計30件という目標でしたが、平成22年度で累計22件となっております。

施策6の地域における多様なふれあいの場の創出です。

表の一番上の地域の多様な交流の場の設置促進ということで、町内会が主催する事業に対してノウハウ提供や人材派遣、チラシ作成等の支援を実施するとともに、コミュニケーション教室を開催しております。

それから、はつらつシニアサポート事業ですが、これは高齢者団体に特化しまして、地域貢献活動やシニアサロンの設置に対する助成を行っているものでございます。

3番目の地域主体の子育てサロン設置事業ですが、これは子育てサロンを新設する場合の諸経費の助成や運営のための助成を行って、ボランティアに頼る部分も多い団体の資金負担の軽減を図っております。その他、会場提供や情報提供をして運営の支援をしております。

施策6の成果指標として、身近に交流、触れ合いができる場があると感じている市民の割合が平成25年で33.3%を目標としております。22年度は調査を実施しておりません。

最後に、重点施策7の市民まちづくり活動を広げる寄附文化の情勢です。

1番目、2番目、3番目がさぼりとほっと基金の関係でございます。これは省略いたします。

4番目の絵本基金「子ども未来文庫」ということで、企業や団体、市民から就学前児童向けの絵本の寄贈を募り、保育所や子育て支援の場で活用するものでございます。

成果指標は、さぼりとほっと基金への年間寄附額が平成25年度までの累計で1億5,000万円となっておりますが、おかげさまで23年10月末で1億7,000万円ということで計画目標は達成しております。

長くなりましたが、以上が施策ごとの主要な事業のご紹介でした。

次に、平成22年度に新しい事業が幾つかの部局で開始されておまして、3事業ほどございます。その下の今後の課題ということで、私どもではこういった調査をして、事業

に取り組む中で困っている課題だと感じていることです。

重点施策1の多くの市民のまちづくりへの参加促進という観点では、幅広い年齢層へまちづくり活動に関する情報を提供する方法や市民活動への参加のきっかけづくりの手法について、どうしていったらいいかと考えております。

例えば、今は地下歩行空間などでPR活動などを行っているのですが、もっと効果的にいろいろな年齢層に波及していくような方法はないものかということが課題かと感じております。

また、重点施策2に関しては、大学機関等の連携によるまちづくり人材育成プログラムの開発と計画にはあるのですが、プログラム開発をどのようにやっていくのか。また、プログラムと言いましても、総合的なカリキュラム的なものからインターンシップを実施するという、ある種、プロジェクトの手法の確立というものまでであろうかと思っておりますので、こういった取り組みをしていったらいいか。その中で、特にインターンシップは、私どもももの事業として考えているのですが、これを継続的にやっていく方法もなかなか難しいと感じているところでございます。

それから、重点施策4の市民まちづくり活動の多様な連携を促進ということですが。団体同士を結びつけ、交流を活発にする手法でもいいやり方が見つからないでおります。現在は、先ほど申し上げたエルプラザの市民活動サポートセンターのイベントの中で団体同士がそれぞれの活動を紹介し合ったり、あるいは、イベントの中で団体が活動発表をしているいろいろな方に見ていただくという場面をつくっているところですが、そこから一步踏み込んで連携に進めていくところがなかなか難しいと感じているところでございます。

それから、重点施策7の市民まちづくり活動を広げる寄附文化の醸成です。さぽーとほっと基金のさらなる充実のためのPRの手法、寄附方法の開発について、ぜひご助言、ご助力をお願いできればと思っております。

今、お配りしているペットボトルは、寄附付きの自動販売機で1本当たり15円の寄附が入ってくるものです。こちらの宮田屋のコーヒーは、75円で売ってしまして、1袋売れると1円の寄附が入ってくる形で、私どもも一生懸命セールスに走っているところです。

また、成澤がプレスレットをしているのですが、これは300円で売ってしまして、1本売れると226円の寄附が入ってくるというものです。

こういった取り組みも含めて多様なアプローチができればと考えているところでございます。

以上、大変長くなりましたが、基本計画の進捗状況のご報告でございました。

○河野委員長 アンケートの説明を続けてお願いします。

○事務局（高橋） 私からアンケートの説明をしていきたいと思っております。

まず、8月の本部委員会でもご説明させていただきましたが、国の緊急雇用の枠組みを活用して、業務委託で市民まちづくり活動ニーズ調査事業を実施しております。その内容は大きく分けて二つで、ふだん、まちづくり活動になじみのない市民の方へのまちづくり

活動のPRです。これは、オータムフェストや雪まつりなど市内の九つのイベントにブースを出して、まち行く皆さんに市民活動のPRをするというものです。もう一つは、団体が必要としている支援のニーズを調査するものです。

今申しあげました団体のニーズに関しては、まちづくり活動団体が抱える課題、必要としている支援を把握して、本市が行う事業の見直しや今後の新規構築などを行っていくことを目的にアンケートを行ったところです。このアンケートは、市民活動サポートセンターの登録団体が1,800あるのですが、そのほか市内に主たる事務所を置くNPO法人が約750、さぽーとほっと基金の登録団体が300あります。もちろん、重複しておりますので、重複調整をしまして、合計2,159団体にアンケートを送ったところです。

この結果、569団体からアンケートの回答がありまして、回収率としては25.8%ということで、同種のアンケートとしては同程度の回収率となっております。

今後は、この回答について3月末までに業者で集計、分析を進めていくこととなります。さらに、回答をいただいた団体のうち、約100団体を目標にヒアリング調査を行います。もう50件ほどヒアリングが進んでいるそうですが、調査を行って分析していく予定になっていきます。

本日は、そのアンケートの回答ですが、そういう意味ではまだ分析をしておらず、単純に集計したものがまとまっておりますので、それをごらんいただき、今後の市民活動団体の支援のあり方、こういう事業が必要ではないかという自由なご意見をいただきたいと思っております。さらに、集計の方法についても、後で説明させていただきますが、活動年数の短い団体が課題として一番の挙げているものは何だろうか、それぞれのアンケート項目を関連づけたクロス集計ができるかどうかというご意見もいただければ検討したいと思います。

また、先ほど言いましたヒアリング調査がこれから50団体ほど残っておりますので、その中でこういったことを聞いてみたらいいのではないかとといった意見がありましたら教えていただければと思います。

それでは、アンケートの結果について、簡単に説明していきたいと思っております。

市民まちづくり活動団体のアンケート結果ダイジェストという資料をごらんください。

こちら、アンケート結果自体は結構いっぱいありましたので、ポイントとなる点だけをまとめてダイジェストを作成しております。

Q1-1から簡単にご説明していきたいと思っております。

まず、活動年数を聞いております。

グラフを見ていただくとわかるのですが、活動年数1年未満の団体が12.1%と最も多い状態になります。グラフの右側に書いていることですが、1年以上2年未満が2.3%、2年以上3年未満が3.5%となっております。これを見ると、新たな市民活動が生まれてもそれがずっと長く継続していくことが難しいのかなという状況がこのアンケートから読み取れると思っております。

続いて、Q 1 - 4 は、団体の年間のおおよその予算規模についてお聞きしたものです。

グラフの右側になりますが、10万円未満、50万円未満とありまして、50万円未満が39.2%を占めております。500万円未満でいくと73.2%の団体が当てはまります。さらに、このグラフには載せていませんが、違う質問で資金調達方法をどういうふうにしていますかという質問で、会費というものがありました。会費とは会に入っている方から会費をいただくもので、それだけに依存しているという団体が結構多いのです。例えば、ほかの寄附金や事業収入、助成金などによって賄っている団体よりも、会費のみでやっているところが90%から100%を占めているところが28.9%の団体です。ですから、仲間内からの会費以外の資金調達を持たない団体が多く、零細で財政基盤の弱い状況がこのアンケートから見えてくるかと思っています。

続きまして、2ページのQ 2 - 2 は、活動や運営にかかわる課題にどんなものがありますかという質問です。

最も多いのが会員の確保の291件です。これは複数回答ですので、53.2%の団体が挙げていることになります。続いて、活動資金の調達確保で、200件で36.6%となっております。この質問で言うところの会員という定義が会費を納めて団体に加入している人なので、お金や人というところが団体にとっての一番の課題なのかなというところが見受けられると思います。続いて、スタッフの確保、事業の開催やイベント等の参加、呼びかけ、PR、活動場所の確保、団体の運営に関する能力の向上と続いていまして、人材、活動の場、広報のニーズが高いと考えられます。そういった意味では、先ほどご説明させていただいた基本計画の目標ともおおむね合致しているところが見えてくると思います。

続きまして、Q 2 - 4 のあなたの団体は活動に当たってほかの団体との連携を行っていますかという質問です。

連携を行っていると答えた団体が66.5%です。また、連携を希望しているけれども、実際には行っていないところが14.7%です。この質問に関しては、19年度に同じようなアンケートをしていまして、それぞれ61.9%、21.3%ということで、若干ではあります。連携を行っている団体が増加しております。

続いて、3ページに行ってくださいまして、Q 2 - 7 の団体の活動を拡充させ、活動力を高めていくためにはどのような人材が必要かというところです。

こちらでも、断トツで継続的に活動を担ってくれる人材ということで353件、実に67.4%の団体が挙げております。次いで、活動に参加するボランティアが172件です。それから、事業の企画に関する知識と経験を持った人材が100件となっております。これで見えてくるのは、専門的な技術や能力を持った人材というよりも、まず、団体では恒常的に活動に参加してくれるような人材が欲しいというところが見えてくるかと思っています。

さらに下に行きまして、Q 3 - 1 です。このアンケート自体、さぼりとほっと基金の登録団体用と登録していない未登録団体用に一部問題を変えております。未登録団体用のア

アンケートには、さぼーとほっと基金を知っていますかという質問を入れております。これを見ると、「聞いたことがあるが、詳しくは知らない」「全く知らない」を合わせると78.3%となっております。当然、メリットがある市民活動団体でこの数字なので、もっとPRに力を入れていかなければならないと思っています。

さぼーとほっと基金の助成申請の募集をしていますが、そこに応募してくる団体も結構固定化してきている部分もありますので、多くの団体にこの制度を知ってもらって活用していただきたいと考えております。このアンケートの中では、さぼーとほっと基金の概要を説明したような内容も入れているので、そういった形のPRも兼ねてやっているところでは。

最後になりますけれども、4ページです。

今回は、登録団体用に入れた質問で、さぼーとほっと基金の助成を受けたことをきっかけにして、財政的な理由以外で団体の活動に何か変化がありましたかという質問をしています。

これを見ますと、財源の拡大、活動の充実以外に団体構成員の活動意欲が高まったと答えている団体が12件で、他団体とのネットワークが広がった、事業の参加者、顧客がふえたということを挙げている団体があります。この結果から見えてくるのは、助成金を受けるといのは、ただお金をもらうだけではなくて、団体の信用力の向上や、活動が認められたというふうに受けとめていただいて構成員の方のモチベーションが向上するという効果もあるのかなというふうに見ております。

アンケートの説明については以上です。

○河野部会長 ありがとうございます。

ただいま、二つの議題についてご説明をいただきました。基本計画の進捗状況及びまちづくり活動団体へのアンケートの結果についてです。それを踏まえて、皆さん方からご質問やご意見などを伺っていきたいと思います。

最初に、基本計画の進捗状況についてのご説明に関してご質問やご意見などがございましたら、お出しいただければと思います。

○福士委員 では、私から申し上げます。

今、ご丁寧に説明していただきました。内容全般を見て、最後に今後の課題等という重点項目が幾つかありますね。何年か前から見たら、市民の意識も、徐々にではあるけれども、変わりつつあると思います。例えば、私は南区ですから南区の例を一つ出してご説明したいのですが、南区というのは、ご存じのように全市の中で高齢化率が一番高いです。平成27年を境として札幌市の人口も減るだろうという予測が出ています。その中で、南区全体は、既に実施しております区民協議会の柱の中にシーニックバイウェイという一つの行動団体があります。シーニックバイウェイとは何かというと、発祥はアメリカなのです。シーニックは景観、バイウェイは寄り道、回り道という意味です。南区は230号線、453号線という国道を抱えておりますから、その国道をベースにした関係者の方々でま

ちづくりをしていこうではないかという中で、地域部会、景観部会、観光部会の三つがございます。これをやるに当たって、区民協議会の組織はやるよと全市で一致したのです。でも、何をやるのかとなると、今さら新たな組織をつくってやるよとなると大変な労力が必要なのです。その中で、従来やっている活動の集合体がこのシーニックバイウェイという一つのくくりになっていますので、将来的には、南区の区民協議会があって、その一つの柱がシーニックバイウェイということになります。

そして、ことしの7月29日にシーニックバイウェイの指定ルートに認定されたのです。今、全道11カ所でシーニックバイウェイの活動をしていまして、12月3日に全道フォーラムがあるのですが、全道一堂に会して、活動経過の事例発表や今後の課題等をもんで、地域の活性化をしようということが大きなねらいです。

そんな中で、話は最初に戻るのですが、高齢者がどんどんふえていくということであれば、少子高齢の中で今一番重点的に考えていくのは、やっぱり高齢者の対応です。もう自分たちも高齢者に入ってきますので、そういったときに、ひきこもることのないような、表に出ていけるような環境づくりをしていこうではないかということ、既に平成15年ぐらいから各地区でもいろいろ検討しています。どうしたらお年寄りを表に出せるのかと考えたときに、買い物もだんだん不便になるし、朝市でもやろうかということが発端で、既に朝市を8年以上やっている地区も何カ所もあります。そのほかに、この中にも出ていますけれども、子育てサロンと並行した中でのお年寄りコミュニティサロンの設置のために、朝市等のスタッフをベースにしながら、月1回、お年寄りがみんなで集まっている話し合ったり、趣味の講座を開いたりしています。なおかつ、その中で出た話では、だんだんお年寄りになってくると、食事の関係も大変だろうということで、地域食堂をつくって見たらどうか。これも、昔、工場だった跡地を提供する方がおまして、これも非常に活発になってきています。ですから、視点があればこれもとなると、実行の段階で厳しいものがある中で、ある程度のポイントを一つ絞って、いかに説明をしながら考えたものを活動できるか。情報がわかるとかわからないということは別に、その場面に人が入ってくることによって非常に大きな広がりができます。

南区というのは、東海大学や札幌市立大学と地域協定を結んでいます。東海大学は学科の部分に入っていると思うのですが、地域の経済の活性化というテーマの中に学生がどんどん入ってきているのです。例えば、定山溪というのは今、観光関係が非常に不調なものですから、どういうふうにしたら集客を見込むことができるかということになると、やはり地域の人間で考える中で限界があって、専門的な知識は学生の方が数段すぐれています。そういった中で、新しい商品をみんなで考えて、それも既に商品化して、お客に入ってもらうようにするなどしています。

また、市立大学では、もともとデザイン学科ですから、地域の空間デザイン関係にもどんどん入ってきています。一つの例として、今度行かれたらおわかりになると思うのですが、真駒内本町に行かれたらわかると思うのですが、あそこに非常に大きい高架橋があっ

たのです。あの高架橋は、その当時は随分と機能性があって使われたのですが、昔の施設なものですから、勾配が物すごくきつくて、お年寄りを見ていたら冬は非常に危ない状況なのです。これも、十何年かかって、ことしの夏に、札建が動きまして、全部を撤去したのです。あのデザイン関係も、市立大学のデザイン学科が入ってプランニングをして、その地区のまちづくりの活性化につなげていっています。やっぱり、地域にいる人たちの考えの限界をさらに広げるということであれば、大学というのは極めていいパートナーの一つだろうと思います。

それから、市長が盛んに言うNPOという話についても、徐々にではあるけれども、理解度が高まりつつある感じがしています。学校関係も相当いろいろな部分で地域の中に入りまして、子ども会議をつくって地域と一緒に連携するような動きになっていますから、子どもの安全という部分についてもある程度クリアできる状況に入っているような気がします。

その反面、ここにも出ていますが、地域の重点施策1に出ています福祉除雪事業など除雪関係にしましても、財源確保と言ったら変ですけども、財源確保の一つ、活動資金の一環として、学校が除雪のメンバーに入っています。これは、ご存じのように、協力員1人に対して2万1,000円が入るのですが、それをプールした中で活動的なものに使うとか、非常に多種多様です。

最近、見ていますと、私の感想ですけども、レベルが非常に上がりつつあると思っています。さらに、ごみの問題も戸別収集とかさまざまな話が報道で出ていますけれども、これにつきましても十分に議論をしていって、どうしたらコストのかからない、なおかつ、みんなで快適な生活が送れるような、ごみの問題に立ち向かえるような環境づくりができるか、こういう関係に関しましても、有料化にしてあれだけトラブルなくいったというのは、市長の力もさることながら、市民の力の最たる結果だろうと考えています。ですから、何回も言いますが、全市的に考えたならば、恐らく今度は雪の問題だと思います。雪は毎年降るわけですから、その雪に対してどのように将来的に維持して快適な冬を過ごせるかという方法を考えるためには、一つの手法として、ある程度の市民の負担も広く、安く持ってもらって、黙っていても年間150億円かかるわけですから、そういったものに対応していくということも一つの方法かと思っています。

もろもろを見ていますけれども、みんなが何もやらなくなってしまって困るような状況が見えてくれば、地域は自然とレベルアップすると思います。

ちょっと長くなりましたが、感想です。

○河野部会長 南区ではさまざまな事業を展開していますが、福士委員、このさまざまな事業に対する担い手というのは、どういう人たちで、どういうふうに動かすのですか。

○福士委員 方法としては、余り難しく考えていません。要は、人が集まってきますと、若い人が来るのが一番望ましいのですけれども、若い人も入ってきます。YOSAKOIなどをやっていると、YOSAKOIの関係で若い人がどんどん入ってきます。それは

それとして、ベースとして、お年寄りの方々が、次々に事業展開をしても、みんなよく一生懸命についてくるなと思うぐらいにどんどん出てくるのです。

スポーツ関係もさまざまやっているのですが、この間も新たな種目の研修会をやってみたら、人が随分集まりました。今、カーリング場をつくっていますね。そして、カーリングの向こうを張るカロリングというスポーツをやっている団体が全道で16団体もあるのです。何のことはないです。ストーンの下に車が三つついていて、軽いのです。それをサークルにめがけて投げる体育館でやる種目です。こういったものやペタンクなどをやったら、お年寄りでも、もちろん若い人でもできます。そういうことがどんどん広がっていくことによって……。

○河野部会長 要するに、目に見える活動が人を引きつけていくということですね。

○福士委員 そうだと思います。

○河野部会長 ありがとうございます。

そういう意味では、市民活動そのもの、まちづくり活動そのものがちょっとはレベルアップしてきているのではないかという評価が今のお話の中にあつたように思いますが、ほかの委員はどうですか。

○事務局（成澤活動促進担当課長） 今のお話を聞いていて、課題の設定の仕方というか、テーマの設定の仕方かなと思ったのです。福士委員が言われていた高齢者とか、南区の地域特性とか、子育てとか、みんなが関心のあるごみや雪など、今後の課題の重点施策を進める上で、幅広い年齢参加に関してみんなが関心を寄せるような、例えば高齢者の対策を考えようとか、どういう情報提供の仕方をするかというところがテーマになったり、先ほど言われていた地域の大学など、自分たちの地域で大学を活用して行って、そこから切り込みをかけてプログラム開発をしていくとか、団体同士を結びつけていくのに、当然、複数団体が同じテーマでやっていますので、その連携でごみをテーマにその団体を集めてみるとか、さぼーとほっと基金も同じで、宮田屋にやっていただいている1円というのは障がい福祉の関係で寄附のテーマが分野別に行くのです。障がい者雇用を行っていて、池田委員や福士委員にもバックアップいただいて、そのテーマに皆さんに関心を寄せてもらうという方法です。ですから、テーマの設定の仕方として、今のことを参考にして進める方法もあると思いました。

○福士委員 全市的に、各区はみんな一生懸命、まちづくりに挑戦しているのです。これからの進め方の一つの手法としては、お互いに連携し合う活動をどんどん広げていけば、自分たちの地域がよくわからなくても、よその方はさまざまなことがよく見えるのです。そういうものをお互いにやりとりしながら、自分たちにはないところを吸収しながらそれを実行していくということをやっていくと、行政サイドも極めて動きやすいです。

また、やってみてわかるのですが、財源等が一番絡んでくるのですが、財源というのは、やり方によってはそんなに負担がかからないでちゃんと集まります。当然、行政サイドでも何らかの支援をしていただけます。補助金や助成金も一回はもらうようにするけれども、

2回目、3回目はやめようと。2回目、3回目は自前でやれるような地域づくりをしていった方が将来的に長く継続できるのではないかと考えています。

こういうことも、まだ時間はかかるけれども、みんなに言い続けて、何とかそういうふうになればいいなと思っています。

○河野部会長 ありがとうございます。

出されておりました課題を網羅するような形でのご意見をいただきましたが、ほかの方はどうでしょうか。

○事務局（高野市民自治推進室長） 今、福士委員が前段におっしゃっていましたが、今後、高齢者の引きこもりが多くなるという話ですが、若者の引きこもりは結構多いのですけれども、今後は高齢者がふえてくるということです。若者というのは、昔と違って今は少人数だから、ひきこもる場所ができたのです。各家庭で、ひとりっ子だったら場所がちゃんとありますね。それから、ひきこもるだけの誘引というか、例えば、ゲームをやらなければいけない、携帯をやらなければいけない、ネットをやらなければいけないとか、いろいろなものがあってひきこもってしまうのですが、高齢者の方の引きこもりというのは、家で何をしているのでしょうか。

○福士委員 やっぱり、パソコンとか……。

○事務局（高野市民自治推進室長） 高齢者もそういうことをやっているのですか。高齢者は余り得意ではないイメージがあるのです。

○福士委員 ただ、ぼけっとしているとか……。

○喜多副部会長 テレビを見ているのでしょうかね。

○事務局（成澤活動促進担当課長） 人とかかわりを持ちたくないからテレビに行ってしまうということですか。

○喜多副部会長 そういうことでもないと思います。

○福士委員 ただ慢性的に見ているだけです。

○喜多副部会長 そして、体が動けなくなったりすると、出るのがおっくうだったり、誘いに来てくれれば出るけれどもという人もいます。

○事務局（高野市民自治推進室長） やはり、誘引というか、モチベーションというか、参加したら、外に出たら楽しいということがないとなかなか出ないのでしょうかね。

○喜多副部会長 おっくうなのでしょうね。コミュニケーションをとるのもおっくうなのです。ただ、カフェに来ているお客さんは、家にいたら変になってしまいそう、人としゃべれない、家族はいるけれども、家族からは孤立していてしゃべりたくない、そして、部屋にこもっている、そういう方もいらっしゃると思います。ですから、昼間は全くひとりという方は、人としゃべりたいというのは子育て中のお母さんと同じで、お母さんたちも、赤ちゃんは日本語をしゃべれませんから、しゃべりたいと思っているお母さんたちと本当に似ているなと思います。

○事務局（高野市民自治推進室長） 今、郊外で暮らしていると、だんだん不便になって

くるのですから、都心回帰で、そこはもう捨ててしまって地下鉄に近い都心部のマンションにみんな引っ越してきて、人とかかわりを余り持ちたくないという感じで、町内会にもなかなか入ってくれないような方がいます。入ってくれと言っても、せっかくこっちにひとりになろうと思って来たのにみたいな方がだんだんふえてきているのです。ご夫婦だとしてもです。そういう方たちがだんだんふえてきている中で、いかにして町内会に入ってもらおうか、市民活動に参加してもらおうかということが私たちとしてすごくネックになってきているのです。

○喜多副部長 町内会が嫌でマンションに引っ越してくる方もいらっしゃるので、新たなコミュニティーは大切かなと思います。だから、カフェなど地域でいろいろな人たちが集まれる場所とか、いろいろなタイプの場所づくりがこれからは重要になってくるのではないかと思います。それに合ったところにそれぞれが参加して行って、そこが新たな問題解決の場になっていくというのがいいかなと思っています。

○池田委員 私どもはシニアサロンをしております、札幌市の一番最初のモデル事業で、3年間、補助金をいただいたのです。その前からもやっております、かれこれ10年近いと思うのですが、今は、すごく緩い感覚というか、我々はほとんどタッチしていません。我々は場所を提供しているのです。運営委員の中には、基本的にはボランティアとして教える立場の方です。教えるといっても、今は一緒にやっています。例えば、メニューは、そば道場、布遊び、カラオケ、絵手紙、あとはケーキです。近所の喫茶店のマスターが午前中だけ来てくれて、本物のコーヒーを落としてくれるとか、フルーツ演奏など、いろいろなメニューがあるのです。今も月間スケジュールをつくっているのですけれども、基本的に、お金はかかった材料費だけです。私どもは、講師の方にだけは交通費として3,000円を払うのです。それだけの費用負担なのです。ですから、年間を通せば60万円ぐらいになるのかもしれませんが、それだけで人が結構集っていて、ほかの町内会から民生委員の方々が五、六人連れてきたりします。それは、離れていて、工業団地なので、すごく楽ちんです。ただ、交通の便だけ面倒を見てほしいということで送迎はしているのですけれども、ほかは皆さんも自力で来られて、JICAが年に七、八回来られるのです。そのときには、地域の方々がお着物を着て、大体3名から4名がおもてなしでお抹茶を出してくれるのです。もう結構ご高齢なのですが、せっかくたんすに眠っている着物を見てもらうだけでも、ビューティフルと言ってもらうだけでもうれしいということでやっています。

場所があれば、そこに思いのある人が集まります。例えば、農家の人は、野菜をつくるといっぱい余るのです。余ったものを持ってきて、みんなで好きに分けて持って帰るとか、それでコミュニケーションがとれていたりします。ですから、デイサービスに行くよりもここがいいわよという声が聞こえたりします。今は垣根がほとんどない状況で、むしろ、補助金をもらっていたときよりは余り縛りがありません。前は報告書を絶対に書かなきゃというのがあったのですが、今は、講師の方はどんな方が来られたか、メンバーを書くの

です。あとは、自力で名前を書いて、それが重なっていくという状況なので、運営委員会も余り大きくはやらない状況です。

そういった意味では、札幌市内でも場所を提供する企業があると思うのです。この会議室を使ってくださいとか、人に来てもらうことで企業にとっても活性化するところがあると思います。

先週、ホームックが西岡に福祉関係の大きなお店をつくったのです。陶芸教室もあるのですが、教室が2部屋あいています、何か活用する方法はないですかと言うのです。状況によっては部屋代を2,000円くらいもらうか、内容によっては無料でもいい、人に来てもらいたいと言うのです。企業の力を借りるということも、企業も負担なく、ルールを守って、運営委員会か何か責任を持った形でやれば、余り財源がなくてもできるのかなと感じます。

○河野部会長 きっかけづくりそのものが非常にふだん着的で、余り堅苦しくなくということですね。デイサービスのように介護度が云々とか、そういうかちつとしたものよりも、地域の人たちがふらっと寄れる場所があるとなつながついていけるという感じですね。

○池田委員 皆さんが勝手に、コーヒーを飲むだけならもったいないから、だれかがバイオリンを演奏するかなとか、フルート演奏をしようかなとか、僕がやっていいですかみたいな形で集まってきている状況があるので、発表したい人、ちょっと通いたいという人も、場所があれば、大きなことを考えなくてもいいのかなと思います。

○事務局（高野市民自治推進室長） 出無精の人をいかにそこまで引き込むかということですね。それは、ロコミでどンドン広がったのでしょうか。だれかが連れて行ったのでしょうか。

○池田委員 当初、補助をいただいている

ときはまちづくりセンターでいろいろなチラシを配ったのです。でも、基本はロコミですね。一緒に行こうよとだれかが誘ってですね。

○吉田委員 ちょっといいですか。

今までの話は、まちづくりという観点なのか、あるいは高齢者の福祉という観点なのか、ちょっとよくわからないのです。逆の言い方をすると、例えば、今、活動をしたり、見たりというのは、私みたいにまだ体が動いて健康な人間から見れば至るところに何でもあるわけです。自分のやる気さえあればですね。あるいは行ってみようとか、こういう仲間のところとか、こういう趣味をやろうと。しかし、一たん引きこもりのようになってしまっただけになると、そこからまた出ていくのは物すごいことだと思うのです。

○池田委員 最初の一步ですね。

○吉田委員 そういう意味では、まちづくり団体の活動の視点をそこに置くとすれば、活動家の人たちがそういう人たちをどう引き込むかということだろうと思います。

○喜多副部会長 元気な人ももうちょっと活動に目を向けるにはどうしたらいいかということもありますね。

○福士委員 呼び方は、行政サイドもさまざまな組織体がありますから、そういう仕掛け方をしているのです。それから、最近、スポーツ施設が地域と連携しながら体育教室などをやると、これも集まります。インストラクターはプロですから、それをやると、最初は来なかったけれども、最近やったら満杯になるくらいに来るのです。お年寄りも、それだけ健康というものに対して関心が高いです。

○河野部会長 今、まちづくりと高齢者の問題がどういうふうにかかわるのかという話もあったのですが、私は、先ほど成澤課長もおっしゃってくださったように、地域のさまざまな課題をお互いに共有できる場がどこかにあったら、そこからまた新しい芽が繋がっていけるのではないかと、その視点が高齢者というところに行ったので、その話になったと思うのです。地域でただまちづくりをしようということだけではなくて、まちづくりをするために、今、何が課題になっているのかというところを地域の中で共有できる場面が南区ではたくさんあるような、そんな事例として伺ったのです。その課題をどういうふうに関共有し合えていけるのか、一つずつの課題解決に向けていく力そのものがまちづくりに繋がっていくのではないかと私は思いながら聞かせていただいたのです。

○福士委員 行政サイドも、データは全部あると思うので、さまざまな地区に行って市民から質問を受けたときに、こういうケースがありますよとか、ああいうケースがありますよというネタを持って行ってやる進め方をすると、聞いた人もそれを一つのヒントにしながらかやれる部分があると思います。提案型の部分も必要でしょうけれども、逆に、実施例を投げかけてあげることによって地域は考えると思います。

○河野部会長 ありがとうございます。

ある意味では話が深まっているなと思いますが、時間も押してきていますので、アンケートについても重ねながら皆さんのご意見をいただければと思います。

○喜多副部会長 今、重点施策1から説明していただいたのですが、この重点施策の最後に出た今後の課題がこれからの一番の課題だというふうに思っているのですね。

○事務局（望月市民活動促進担当係長） 私どもで直接把握しているという問題意識ですが、各部局にまたがっていますので、多分、それぞれの部局でそれぞれの課題はあると思いますが、私どもが直接見えているところで挙げさせていただいています。

○喜多副部会長 やっぱり、重点項目はすごく長くなってしまっているけれども、この中でも、特にここをというところに絞って進めていく方法もあるのかというふうに聞いていたのです。人とお金というのは、アンケート結果の中からも出てわかるように、先ほど池田委員が60万円ぐらいだったらできるとおっしゃっていましたが、その60万円も市民活動の人たちにはないのです。そこをどういうふうに出していきのかというところが問題になっているのです。ですから、アメリカやヨーロッパのような寄附文化を育てるということで、市民からお金を、どんな方法があるかわからないですが、今、震災の中でファンドレージングの機運が高まっていると思うのです。さぼりとほっと基金も、エルプラザに

登録した団体には必ず教えるという形でさぼーとほっと基金をふやしていくとか、企業もそうですが、活動ができない人でもお金を払える方法もあるのだという寄附文化を育てることを札幌市として重点項目に挙げてやっていくと。私たちはもちろんですが、何かやっていく必要があるのかなと思っています。

また、アンケートでは連携も聞いていましたが、団体同士の連携は、かかわっている人と人とのつながりだと思うのです。ですから、人と人をどういうふうにつなげるかということでは、交流会を開催するとか、ただ団体の紹介ということではなくて、人と人を合わせる場所づくりがこれから大事になると聞いていました。

○河野部会長 ありがとうございます。

日本の中では、寄附文化という言葉自体が広がる要素が少ないです。欧米などに行くと教会文化と寄附文化が一緒になっていて、それも地域力をつくることにつながっているように感じています。その辺の課題も、さぼーとほっと基金にどのようにアクセスしてもらえるかということも大きい課題になっていると思います。先ほどの話の中にもありましたけれども、PRを行政だけがやったのでは意味と広がりはなかなかつかれないのです。

○喜多副部会長 私たちNPO団体が連携していくということですね。

○河野部会長 NPOもそうですし、さぼーとほっと基金を受けて、事業を展開した者も、その場で終わらないで、活動の中にそれを入れていくということも必要ではないかと思います。

○福士委員 さぼーとほっと基金が非常に脚光を浴びて、いいのです。日本人は寄附文化が非常に希薄な中で、今回の東日本大震災では義援金は3,700億円ぐらい集まっているのです。一過性の基金だと集まります。私も、市の共同募金の副会長をやっていますからわかるのですが、戦後60何年ずっとやってきて、平成7年からどんどん下がっているのです。いろいろな手は打っています。しかし、募金や寄附というものについては、これからはやり方を相当考えていかなければいけないと思います。ですから、さぼーとほっと基金も、今のところはいいと思いますが、いずれマンネリ化してしまうと落ちる可能性があると思うのです。そういうことがならないような施策を今から考えた方がいいと思います。

○喜多副部会長 今、日本ファンドレージング協会が立ち上がっていて、この間、研修会を受けたのです。企業とNPOのマッチングというところで、NPOサポートセンターが主催だったのです。そこに行ったときに、日本ファンドレージング協会は、寄附文化がこれから盛り上がってくる予兆があるというふうに予測しているのです。成功事例をたくさん聞くことで、もっとできるのだということをもみんなが体験したらいいということで、私も2月3日、4日に行くのですが、そういうところに札幌市の方も参加していただければと思うのです。成功体験を聞くと、震災の関係で寄附が本当に集まったということもありますが、日本でもこれからできるのではないかと考えております。私自身も工夫していきたいですし、こういう商品を開発したりというふうに思っていますし、こういうふうに社

会のためにお金を使える文化は必ずできると私は思っています。

○事務局（高野市民自治推進室長） 日本人は、危機的な状況にならないと寄附をしないところがあります。ああいう大震災や、三、四歳の子どもが心臓移植でアメリカへ行くとになったらすごく集まるのです。

○事務局（成澤市民活動促進担当課長） テーマの設定とか、ふだん着とか、来やすさとか、楽しさなどという要素を入れ込んでいけば、参加もそうだし、さぼりとほっと基金もそうだし、あるいはテーマの設定によっては団体がつながるといえるか。

○事務局（高野市民自治推進室長） ことし、ミニさっぽろというものをやっています。2日間で子どもが2,000人ぐらい集まるのです。子どものお金でドレーというものがあるのですが、子どものころからそういう寄附文化の醸成ということで、余ったドレーについては寄附してくださいということをやったのです。そうすると、20万ドレーぐらい集まったのです。それを実行委員会の方でお金に換算してくれましたら、5万円ぐらいになったのです。そういった取り組みもやっていて、子どもも意外とすんなりと寄附してくれて、びっくりしましたね。

○喜多副部長 ですから、工夫次第なのです。楽しくということはできると思うのです。

○福士委員 一番最新のものでは、230号線をずっと行って、小金湯の左側の農業センター跡地があったところがさくらの森になりまして、造成が終わったのです。供用開始が平成27年からです。12.何ヘクタールのところです。11月14日にニューオータニで市長、商工会議所、地域と協定を結んだのです。それは何かというと、桜の苗を植えるためのお金を1,000万円集めましょう。そして、25年の春までに1,000万円、1口1万円ということで、商工会議所周年事業の中でそれを出したのです。多分、これは集まるのです。私の地域でも十何団体ありまして、ライオンズクラブなどは50万円や100万円出すという人もいまして、市長はやたら気分をよくして、これはすぐに集まるのではないかと非常に楽観していました。

あそこにあのゾーンができますと、今度は4月から7月までの4カ月間ぐらい桜が見られるようになります。さまざまな桜の種類を植えるのです。去年、おとしに試験植樹をやって、たった一つだけだったのがオオシマザクラだけで、ほかの桜はほとんど育ちます。あれができることによって、さくらの森、ウタリの施設、小金湯、定山溪という一線ができるのです。

それから、12月2日に豊羽鉦山に行くのですが、今、豊羽鉦山はとんでもない事業を展開しているのです。福島原発ではないけれども、鉦排水を冷却するためのポンプ場をつくっていたのです。この竣工、落成に100億円かかったのです。これは、JX合体の親会社ですから、大変な事業をやっています。それと並行して、自然エネルギーの地熱発電の事業化に取り組んでいまして、建屋が建っているのです。これは何かというと、3,000メートルぐらいボーリングをした中で地熱層に当てて、それを循環してエネルギーをやって、これができたら札幌市内のおおむねの電力はほとんど確保できるだろうという

ぐらいの事業展開をしているのです。

ですから、さまざまやっていると、企業の関連の部分のものにも大いに利用できるものがたくさんあります。PFIにどの程度申し込みがあって、進んでいるのかはわからないけれども、ああいったものもどんどんPRすることの意味があって、相当な広がりが可能になるということです。

○河野部会長 11時半ぐらいの予定だったのですが、時間が超過しております。

もう一つ議題が残っておりますので、それをご説明いただいて、また皆さんからご意見などをいただきたいと思えます。

三つ目の事業検討部会の活性化についてです。

○事務局（望月市民活動促進担当係長） それでは、経緯の確認ということでご説明させていただきます。

前回の本部委員会で吉田委員からご提言いただいたのですが、事業検討部会ではもっといろいろな活動ができるのではないかとご提言をちょうだいしまして、その中で、事業の進捗状況やイベントなどについてもっと情報提供をということと、政策提言として分析して検討するなどというご提言をちょうだいしたところでございます。

政策提言の部分は、まさにきょうやっていたようなご議論かと思えますが、その他の活動で取り組んでいけるようなことをぜひご意見をちょうだいできればと思っております。

○河野部会長 今、前段の話の中でも、PRをどうするかという話もあって、私たちに何ができるのかということも頭の中をよぎりながら聞いておりました。私たちの部会そのものがどんな役割を担いながら、ある意味でさぼ一とほっと基金に力を注ぐことができるのかというあたりのお話をしながら、それは前段のさまざまな課題にもつながっていくことだろうと思っておりますので、その辺の話を含めた形でご意見を伺えればと思っております。

聞いた話によりますと、せんだって、イベント主催者をご参加なされた。私も、情報はいただいたのですが、なかなかいただけませんでした。感想などをお聞きしたいと思います。

○吉田委員 そのことよりも、問題提起したことをもうちょっと言わせてもらいたいです。私がとんちんかんなことを言っていたら逆に訂正してほしいと思えます。

第1次のテーブル会議があり、我々は言ってみれば第2次のテーブル会議になるのです。第1次テーブル会議は、基本計画をつくるということで、割と役割がはっきりしているのです。しかし、今、第2次のテーブル会議では、向こうのさぼ一とほっと基金の役割ははっきりしているのだと思うのです。しかし、事業検討部会の役割は、どういう役割があるのかわからないままに1年半が過ぎて、もう終わってしまうなという残念な思いであります。しかし、いろいろ言っているけれども、事業検討部会でもう少し焦点を絞ったところを議論しないと、総論であっちだ、こっちだと言っている、なかなか果たせないだろうと思うのです。そういうときに、事業部会の役割の視点というか重点をどこに考えた

らいいのかと思ったのです。

私の私見を少しつけ加えてさせていただくと、一つは、部会長がおっしゃったさぼーとほっと基金を受けた事業の団体の活動に事業部会が参加する、視察する、応援するというような活動があると思います。

たくさんあると思うのですけれども、何を言ったらいいのか……。

○事務局（高野市民自治推進室長） 何かイベントをやるとか。

○吉田委員 もう一つは、市民活動全体をとらえたときに、難しいのだけれども、つまり、今ある活動団体の活動を活性化していくのだという側面と、新しくこういう分野の活動団体があったり、こういう活動というように新しくつくらなければいけないのです。どちらに目を向けるのだということも、この事業部会がもし何かをやるとすれば、そちらに絞って考えていかなければいけないのではないかと思います。本当は両方必要ですよ。市民まちづくり全体を見ながら、両方の活動を促進させる、新しい活動分野と両方が必要なのだろうと思います。

そして、もうちょっと言わせていただくと、活動というのは、絶対的に人がいるかどうかだと思うのです。その中でも、とりわけリーダーがいるのか。リーダーがいないと、いかにお膳立して、こちらが用意をしても長続きしないのではないかと、私は今まで長い間見てきて思っているのです。そういう意味で、リーダーの人づくりと言えどももちろんそんなのだけれども、もっと細かく言うと、新しい事業、相談の分野の活動が体制としてできないかと思うのです。

結論的に言うと、どちらがいいとは言いきりませんが、市民活動促進担当課の皆さんがもっと新しい活動を起こしていく必要があるのではないかと思っているのであれば、新しい活動を起こすことに目を向けなければいけないと思いますし、既にたくさんの方がいるのだから、その団体の活動促進にむしろ力を入れていく方が重要なのではないかと思えば、そちらでもいいのかなと思うのです。

いずれにしても、テーブル会議全体は、ある意味では議会があるけれども、そのミニ版として市民の声を聞くと。行政の皆さんがこういう施策やこういうプランを立てたときに、市民はどう反応するのだというあたりをテーブル会議を通して聞くということが、この会議が一番役立ち得る分野ではないかと思うのです。余り難しいことを言っても、年に何回か開催して、この意見は参考になるというものを挙げられるかというのは、私自身の能力も含めてそう思わないので、やはり市民の声を聞く、あるいは皆さんが政策の選択を迷ったようなときにこういう政策に対して市民はどう反応するのだろうかということを、議会というものがあるけれども、このテーブル会議でミニ版的に聞いたらどうなのかと思っています。

○河野部会長 それでは、第2次かもしれませんが、事務局から、この部会を持った経緯の確認も含めてお話しいただければと思います。

○事務局（成澤市民活動促進担当課長） 先ほど、一部の委員で、第1期に計画をつくり

ましたと。そして、今、計画の進捗状況とか、アンケート調査とか、活動団体の現状を報告させていただいているので、まさに言われたとおり、進みぐあいを確認していただく部分なのかなと思います。その中で、新しい分野、足りない分野はどののだろうかということ、大きく分けて二つ、どちらに重きを置いて、市民を介してというのは、例えば、市民の代表ではないですけれども、進捗状況を見ていただいて、先ほどのような意見を言うていただくのも地域の現場ではこうだ、あるいは、イベントを見てきてこうだったということでもいいと思っています。もし、市民意見が足りないのであれば、市民意見を聞いてみようかということで、この場で議論をもらって、例えば市民にも出すべきではないかとか、まだそこまでは行かないと思いますけれども、私どもとしては、こういった今後の課題の中で、今、いろいろとお聞きした中では、課題でもお金の関係が出てきているので、さぼ一とほっと基金の現状はどうなっているのかということとをさらに報告させてもらって、PR方法を変えた方がいいのではないかと、もっと違う手法があるのではないかと、あるいは企業に力を入れた方がいいのではないかと議論をこれから深めていただくと。あるいは、市民の参加のきっかけづくりで、ふだん着とか、気軽さとか、楽しさとか、高齢者の引きこもりのテーマも前段で出ていましたので、吉田委員はこの前はちょっとしか出ていないと言いましたけれども、実際に札幌市が主催したイベントでもありますし、市民活動団体も出てきて、こういうテーマで議論をしております。でも、あのやり方はもうちょっと変えた方がいいのではないかと、もっとPRをすればもっと入ったのにと、絞って行って、事業検討部会で計画の進捗状況を引き継いでこの二つとか、ほかの方法でもいいのですが、それを次年は2カ月に1回か3カ月に1回ぐらいやっというかとか、活性化につながるのかなと思いました。

○池田委員 私は、福士委員が話された内容はすごく、これこそまちづくりだと思うところが山ほどありましたので、そういった成功事例を一般の皆さんに発表されて——そのときに、さぼ一とほっと基金をいただいているのですか。

○福士委員 もらっていないです。

○池田委員 それでは、いただいて、それがまたこの運営に生かされるみたいな形になると、集まった方々にさぼ一とほっと基金の寄附をいただくみたいな、参画としていただくみたいな、そんな循環がでたらいいなと思います。具体的に何がまちづくりなのかという部分をぼんと言われてしまうとわからなくて、こんなことでいいのかみたいなことが……。

○福士委員 私はずっと言いづけているのですが、人がまちをつくって、まちが人を育てる、これがまちづくりの原点なのです。

○池田委員 それを、どこかでおっしゃっていただいて。すごいと思います。

○河野部会長 私も、きょうの報告を聞いて、各局各部各課含めて本当に多くのまちづくりのための行政施策が進められている実態にあって、先ほど福士委員もおっしゃいましたけれども、進んできているということがよくわかりました。その中で、学校や地域の子どもたちや青年、そういう人たちを活用する場面がまだまだ少ないのではないかとということ

をきょうの報告を受けてすごく感じたわけです。

先ほど室長がおっしゃったのですが、ミニさっぽろをやったときの子どもたちの最後に寄附をするというような、子どもや、これから育っていく、札幌のまちをつくっていく若者たちにそういう機会をさまざまな部署でつくってもらいたいと思ったわけです。この部会がそういう提案をたくさんしていただいて、それを行政施策に反映していただく、そういうメンバーではないかと私は思っております。意見は全然違わなくはないのですけれども、そんなふうに単純に考えていました。

○吉田委員 ただ、こう言うのは何ですけれども、私も小さいながら組織をやってきた人間ですから、このテーブル会議が全庁舎の各部局に対して与えられる影響というふうにはどうしても思えないのです。市民まちづくり局の市民活動促進担当課が直轄的にかかわっている事業であったり施策であったりというところに影響力が及べばいいのかなというくらいです。これは決して卑下して言うわけではないです。

○事務局（高野市民自治推進室長） 事業検討部会の役割として、今、札幌市では第3次新まちづくり計画をつくっています。それから、来年度予算も当然つくっているのですが、そういった行政サイドで、こんな事業をいろいろアイデアを出して考えてやっている、こういう事業はどうですかということをごここで諮ってもいいと思うのです。例えば、今後4年間の事業としてこんなものはどうですかということでもいいと思うのです。

○喜多副部長 ただ、その意見が反映されないと、やっている意味が……。

○事務局（成澤市民活動促進担当課長） それは、吉田委員が言われたように、部会長が言われた若者の参加を進めなさい、計画の進捗を見たけれども、まだまだ進んではいないのではないかと受けとめて、先ほど言われたように、私どもが先行して実施してもいいわけですし、あるいは、計画も21年にできて、あと2年で見直し時期がまた来るのです。当然、テーブル会議の事業検討部会で意見が出ていた、札幌市の現状ではまだまだ足りない、そこで新たな課題として設定して、すぐにはできないかもしれないけれども、全市的な課題としてとらえられる機会は今後出てきますので、全部にいくかどうかわかりませんが、そういう機会は用意されるので、この場で言うていただくことは……。

○吉田委員 言わせていただくと、進めたいところをテーブル会議ではこういう意見ですということの影響として使うということはあるのですか。

○事務局（高野市民自治推進室長） かえって、財政に要求するときに、私どものセクションだけで要求してもなかなかうんと言ってくれないのです。それは、こういった諮問機関からのご了解や同意が出ています、言っていますということ言えば、ああ、そうか、第三者機関からもきちんと来ているということであれば、すごい力になるのです。

○吉田委員 それは、ぜひそのように。

○河野部長 そう意味で、私たちの出した意見が役立っているということですね。

○事務局（高野市民自治推進室長） こういうご意見も出ていますということがあれば一番いいのです。

○吉田委員 最後に辛口を一つだけ言わせていただきます。

この会議の案内次第だけではなく、そのときにこちらの資料もつけていただきたいと思います。

○喜多副部長 それは、私も思いました。

○河野部長 私も、ぜひお願いしたいと思います。

○事務局（高野市民自治推進室長） 議論の時間がもっとないとだめですね。説明が長過ぎましたね。

○河野部長 それでは、時間が余りとれなくて申しわけありませんが、よろしいですか。

○吉田委員 私は言いたいことをすべて言わせてもらいました。

○河野部長 ありがとうございます。

○池田委員 南区に行きたいですね。

○河野部長 私も、藤野のむくどりホームにはしょっちゅう行かせていただいているのですが、あそこも、バリアフリーの公園づくりから始まって、地域の人たちが本当に出入りしているのです。大人も、子どもも、町内会長も、老人クラブの人も、パン屋さんも、本当にいろいろな人たちが出入りします。最近では、やーさんかぶれのような、やくぎになりたいと言っている青年がやってきて、居場所が家の中にもないのでしょうか。引きこもってはいないのですが、それに近いような状況があって、そこでいろいろな若いお母さんたちや子どもたちとボールプールに入ったりしながら、地域の人と打ち解けながら、自分の社会は狭いななどと言っていたりするのです。そういう居場所がまちづくりにつながっていているように思います。本当に小さな活動であっても、その力の大きさはああいふところから見せていただけると思います。それは市民がつくっているわけです。

○喜多副部長 同じです。カフェも同じで、本当にいろいろな人が来ます。障がいを持った人も来ますし、障がいを持った人が働いている作業所での問題点も見えてくるし、お母さんたちはお母さんたちで。そして、子どもたちと触れ合うことで大人も子どもも笑顔になっていきます。いろいろな人が集まれる場所づくりですね。それと、そこにいるスタッフです。サービスをお出しするのが大事です。

○吉田委員 まちづくり協議会の高校生単位というか、どういうふうになっているのですか。各区にありますね。

○事務局（高野市民自治推進室長） まち協には、町内会から、学校から、いろいろな団体が入っています。商店街も入っていたり、NPOも入っています。多いところは30とか40ぐらいのいろいろな団体が入っています。

○河野部長 まちセンも動き出してきているので、すごく期待は持てるかなと思います。今まで、連絡所は町内会しかつながらなかったのが、少しは広がってきていると思います。

○事務局（高野市民自治推進室長） 前の連絡所は町内会としかつながっていませんでしたが、今はいろいろな団体とつながってきていますね。

○喜多副部長 でも、もうちょっとNPOとつながってほしいということはありませんね。

まだまだ怪しい団体というふうに見られることが多いです。

○事務局（成澤市民活動促進担当課長） 積極的に入っていただければと思います。

○喜多副部長 地縁組織に入り込むのは本当に大変なのです。

○河野部長 なかなか難しいですね。

○喜多副部長 新しいコミュニティーをつくりたいというところに入るとね。だから、本当にNPOの理解も進めていけたらというふうに思います。

○河野部長 それでは、最後にちょっとすっきりする話に行ったような気がしております。

私たちにできることはそんなに多くはないと思いますけれども、いろいろな情報を交換しながら、札幌のまちが本当に豊かな発展していけるということが一番基本だと思いますので、そういう意味での意見を私たちが述べたことで施策にちょっと反映されて、それで大きく動いていくことになれば、私たちの役割も果たしているのではないかと思います。

本当にお忙しい中にお集まりいただき、ありがとうございます。

事務局からお願いします。

○事務局（望月市民活動促進担当係長） 活発なご議論をどうもありがとうございました。

本日ちょうだいしたご意見を考慮しまして、事業検討部会のあり方ですが、当初、計画部会として立ち上がった部会が事業検討部会として何をやっていくかというところは、事業検討部会としては第1期なのです。計画部会から事業検討部会になりました。ですから、事業検討部会のあり方はまだ確立していない状態かと思っておりますので、本日にちょうだいしたご意見を検討しながら次期につなげていきたいと思っております。

そこで、もう一度、きょういただいたようなご意見は、議論が深まり切らない部分もあるかと思っておりますので、来年1月か2月ぐらいにもう一度開催させていただきたいと思っております。

きょうは、以前ご意見をちょうだいしていただきました星園の後施設でできればやりたいと思っております。

今は議会開会中であるものですから、きょうはこちらで開催させていただきました。

もう一つはお知らせでございます。

12月10日、11日に地下歩行空間で、まちづくり活動部ということで、地下歩行空間の北側、南側合計4カ所になりましたが、同時にまちづくり活動のイベントをやっておりますので、ぜひ、またごらんいただき、次回の会議でご意見をいただければと思います。

吉田委員がご指摘の直営事業は意見の反映が一番早いですから、こういったところのご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○河野部長 何曜日ですか。

○事務局（望月市民活動促進担当係長） 土・日ですね。

また、16日にも地下歩行空間でパネル展を予定しておりますので、通りかかったら、

ぜひごらんをいただければと思います。

10日、11日にお笑い吉本のシロップという芸人がステージの司会もいたします。

○事務局（高野市民自治推進室長） 彼らは、毎月、本庁に来て1,000円を置いていくのです。

○喜多副部長 この間、カフェに来ました。

アマンドはあまそばの乾麺の商品開発をしているのです。たまたま取材で、動画で撮ってくれたのです。ユーストリームで載ったのです。いつもはアクセスが18しかないのに、そのときだけ60ぐらいふえたのです。

○事務局（高野市民自治推進室長） ひろしとじゅんぺいが来たのですか。

○喜多副部長 だれかが来ました。

○事務局（高野市民自治推進室長） 眼鏡をかけている方ですか。

○喜多副部長 眼鏡ではない方が来ました。

吉本興業も地域をつくるということをやっているのです、それに絡めてやればよいと思いますね。

○事務局（成澤市民活動促進担当課長） その乾麺は寄附つきですか。

○喜多副部長 これを見て、寄附つきでやろうと思いました。

○事務局（高野市民自治推進室長） 吉本だったら、おもしろい恋人をつくるかもしれませんね。問題になっていますね。

○喜多副部長 それをママたちが持ってきて、吉本の人と話したりしていました。

エルプラザに来たのです。市民活動サポートセンターに来たのです。そして、職員が、ここでは置けないと断られてしまったみたいだけれども、アマンドの喜多さんと話したら何かつながるかもしれないと言われて、私がつながっていったのです。ああいうショートコントのチラシも企業だからといって置かないと言わないで、置いたらいいのにと思いました。それでも、企業というところでひっかかるのかなと思いました。

○河野部長 議論のあるところだとは思いますが。

でも、12月10日、11日に、時間がありましたらお願いします。

○事務局（高橋） パネル展は、年が明けて1月16日になります。10日、11日の中でパネル展も一緒にやるということです。12月18日です。

○喜多副部長 先ほど言ったのは12月10日、11日で、地下歩行空間ですね。

○事務局（高橋） 委員の皆さんには、メールか何で詳細を送らせていただきたいと思います。

○事務局（高野市民自治推進室長） 10日、11日は10時から4時ぐらいまででしたか。

○事務局（高橋） はい。

○事務局（高野市民自治推進室長） 通りかかったら、ごらんになっていただきたいと思います。

○河野部会長 ぜひ情報をお願いしたいと思います。

4. 閉 会

○河野部会長 それでは、お忙しいところを本当にありがとうございました。
お疲れさまでした。

以 上